

神大生が行く、東京の大使館めぐり

—アルゼンチン・パナマ編

編集協力…外国語学部 英語英文学科4年 竹田真理子 経済学部 貿易学科4年 三橋康弘
工学部 経営工学科3年 出口 聖
外国語学部 英語英文学科3年 今村 豊
経済学部 経済学科1年 森 洋志

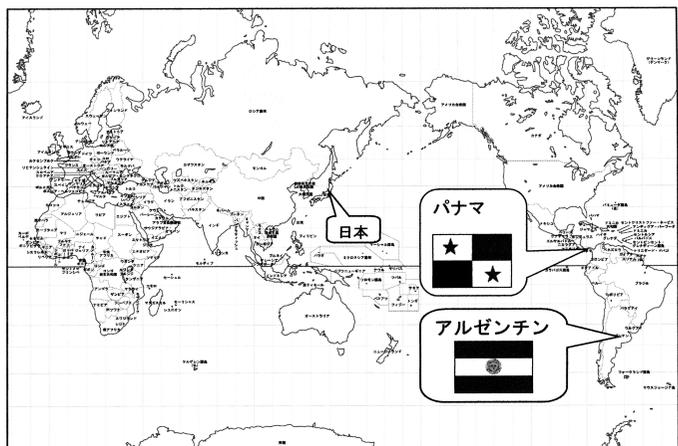
【大使館とは何か？】

近年、「日本におけるドイツ年」といった日本において外国のプロモーションを行う機会が増えています。このようなプロモーションにおいては、いつも「大使館」が関係しています。このときに私は「そういえば大使館って何をしている所なのだろうか、観光誘致が目的なのかな？」という疑問が浮かんできました。インターネットサイトの「All About」によれば、大使館とは「国際法上、本国の領地と同一とみなされ、国が選んだ特命全権大使が、駐在国で公務を行なう施設のこと」を指しています。しかし、言葉で聞いただけでは私たちには実感できません。そこで、今回私たちは大使館を取り上げ、大使館の実像に迫ることにしました。また、大使館を取り上げると共に各国の大学事情

を伺うことで、私たちと同世代の大学生について知る機会を設けました。

では、どこ的大使館へ取材に行くのかを考えたときに、2つの国名が浮かびました。1つ目は「アルゼンチン共和国」です。以前テレビ番組で、アルゼンチンのブエノスアイレスの地下鉄において東京の丸ノ内線で使われていた電車が走っていることを知りました。この時に「アルゼンチンとはどんな国なのだろうか？」という疑問が生まれ、今回の大使館ツアーを通してアルゼンチンを知りたいと思いました。2つ目は「パナマ共和国」です。先日ニュースで、パナマ運河拡張計画が進行していることを知りました。この時に「そういえば、パナマ運河は世界史で習ったけれど、運河のあるパナマとはどんな国なのだろうか？」と思いました。この疑

図表1. アルゼンチン・パナマ・日本の位置関係



出所：世界地図や日本地図で見る <http://www.chizuyainoue.jp/>
外務省ホームページ 各国・地域情勢 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>



アルゼンチン大使館

間をきつかけに、今回パナマ大使館へ取材することを決めました。きつかけは些細なことではあります、何事にも疑問を持ち、それについて探求していくのが取材の一步であると考えています。

【アルゼンチン大使館への取材】

◆初めての大使館取材

アルゼンチン大使館は、地下鉄日比谷線の広尾駅から歩いて12分のところにあります。大使館は住宅街の中に溶け込むようにあるため、一目見ただけでは大使館とは気がつかないかもしれません。しかし、



大使館の玄関に飾ってある国旗

大使館の門前にはアルゼンチンの国旗が立ててあったので、すぐに大使館であることが分かりました。大使館の中に入ると、再び国旗が出迎えてくれました。

ここで、アルゼンチン共和国について紹介します。アルゼンチンは2782千平方kmの国土（日本の約7・5倍）を有し、言語にスペイン語が用いられています。また、アルゼンチンではスポーツやタンゴなどを楽しめるため、行く地域によって様々な顔を見ることが出来ます。そして、アルゼンチンの特徴を示す言葉に「ワイン輸出国である前に、ワインを愛してワインを嗜む国」というものがあります。人口一人当たりのワインの消費量は世界で第10位（31・6リットル）で、日本（2・2リットル）の15倍です。

アルゼンチンはワイン生産国としては世界第5位、輸出国としては世界第12位であり、「新世界ワイン」供給国として世界市場でのプレゼンスを確立しています。過去10年間でワイン対外輸出総額は400%増加。この傾向は2006年上期も同様に継続し、30%増を記録しています。その中でも特に高級ワインの輸出が目立っています。また、日本に輸入されるワインの中でアルゼンチン産のシェアは少ないものの、こ

ているのでワインに興味がある方はぜひためてみてください。そして、私たちは公使の待つ部屋へと向かいました。

◆公使インタビュー

今回は公使のホルヘ・A・オセラ氏がインタビューに応じてくれました。

①大使館の仕事について
—公使の仕事内容について
—教えてくださいませんか？

大学を卒業してから日本に来る前は2回アメリカへ派遣されました。一度、アルゼンチンの代表として国連やアメリカのホワイトハウスで働いたこともあります。私の仕事について話す前に大使館の役割について説明します。大使館の基本的な機能は、2カ国の関係を強化することです。友好的な関係を持つ国々が交流、理解、貿易等を強化する目的で大使館が存在しています。また、大使館で働く人には様々な役割があります。経済、貿易、政治、文化、マスメディア等の様々な分野で各外交官が友好関係を強化するために働いています。この大使館では、政治、経済商務部、文化部、観光部、スポーツ部、プレス部、管理部と分かれております。ちなみ

に、公使はトップから2番目のポストにあたり、大使館における全ての分野の活動においてスーパーバイザーの役割を担っています。例えば、文化イベントへの参加や政治家との会合等の仕事が挙げられます。

— 外交官になったのはなぜですか？
元々両親が外交官であった訳ではなく、また海外の経験も浅い方でした。きつかけは17歳の時に経験したアメリカ留学です。その時にインターナショナルクラブに入り、様々な国の学生と交流しました。時にはそのクラブの代表も務めていました。そのクラブを通して、自分と違う文化を持つ人、違う意見や価値観を持つ人とコミュニケーションをとるのが好きだということとが分かりました。また、留学中に「外交官に向いているのでは？」と言われたこともありま

— 実際には外交官
— になって感じた、
— 仕事の面白さと
— 大変さについて

仕事の面白さは、アルゼンチンを代表して働いていることで

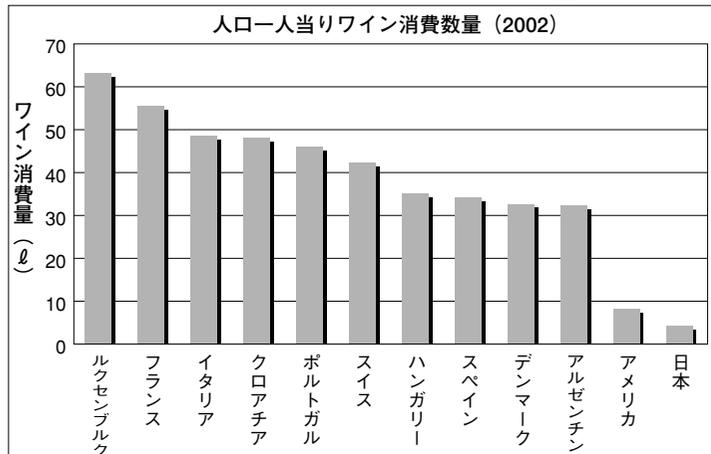


インタビュー風景 (2006.11.20)

この10年で日本への輸出は金額にして9・8倍に増えています。

アルゼンチンには高級ワイン製造の長い伝統があり、特にワインの品種の中でも「マルベック」が傑出しています。マルベックは最も象徴的なアルゼンチンワインであり、国際的な品評会でも認知された世界で最も優れたワインの一つです。アルゼンチンは今、ワインに力を入れ

図表2. 主要ワイン消費国の人口一人当たりワイン消費量 (2002年)



出所：メルシャン株式会社「ワイン参考資料」http://www.mercian.co.jp/wine/wine_market/2005.pdf

す。国としてどのような方向へ進むのかを考え、国の理念を守っていくことに誇りを感じます。また、海外への輸出をするときの広報手段を考えた時、アルゼンチンのイメージアップのために活動をしたりすることもあります。一方、仕事の大変さは生活や言葉に慣れることですね。

②日本とアルゼンチンの関係について
— これまでの経済・貿易面における日本とアルゼンチンの関係について今後、アルゼンチンはどうのように発展していきますか？ また、その過程で日本とどのような面に関係を深めていきたいですか？

アルゼンチンと日本の友好関係は1898年から始まっており、約110年の歴史があります。歴史上では色々な波がありました。友好関係が崩れたことは一度もありません。友好の証として、1905年に日本とロシアが戦争をしていた時に、アルゼンチンは日本に2隻の戦艦を提供しました。この戦艦は、アルゼンチンと日本における友好関係を表すシンボルとなりました。世界地図を見るとアルゼンチンは南半球、日本は北半球にあります。こんなに離れた距離で交流を持つのは珍しいことです。地理的に離れていなくても、両国において「民主主義、人権、公平」という共通の価値観がありま



パナマ大使館の受付

パナマの国土は75
517平方kmで、
北海道よりもやや小
さい大きさです。言
語はスペイン語が用
いられています。英
英語も主要都市では
広く話されています。

【パナマ大使館への取材】
「ビルの中にある大使館」
アルゼンチン大使館に
続き、パナマ大使館を訪
ねました。大使館は地下
鉄日比谷線の六本木駅か
ら徒歩12分のところにあります。大使館に近づ
くと、数多くの国旗とともにオフィスビルが見
えてきました。実は、パナマ大使館は「興和西
麻布ビルディング」というオフィスビルの中に
あるのです。このビルの中には、他にもボリビ
ア共和国やウルグアイ共和国など、合計15の大
使館があります。ビルの9階に上がるとパナマ
大使館があります。中に入ると、まるで会社の
オフィスのような雰囲気です。
ここで、パナマ共和国について紹介します。



ビルの前にある様々な国の国旗

パナマの特徴といえば「国際貿易の拠点である
パナマ運河」です。みなさんご存知でしょ
うか？なんと、パナマ運河は国際貿易の5%に
直接関与し、80カ国以上の仕向地に120航路
のアクセスを提供しています。また、年間に1
万4000隻を越える船舶と350隻を越える
クルーズ船が運河を通航するとともに、1億9
000万トンの貨物、70万人の乗客と乗員の輸
送もあります。これらの数字をみるだけでもこ
の運河の規模の大きさが伝わるといえます。ち
なみに日本は、アメリカ、中国に続き、貿易に
おけるパナマ運河通行量の第3位です。そして
現在、パナマ運河では運河拡張計画が進められ
ています。この計画の総事業費は52・5億ドル、
工期は2007年から2014年を予定してい
ます。この拡張により、ほぼ全てのコンテナ船
がパナマ運河を通航できるようになり、年間で
最大約6億トンの船舶の通航が可能になりま
す。人生に1度はフロリダやロサンゼルスを超
点としてパナマ運河を経由するクルージングを
体験してみたいものです。
そして、私たちは特命全権大使の待つ会議室
へと向かいました。



インタビュー風景 (2006.11.22)

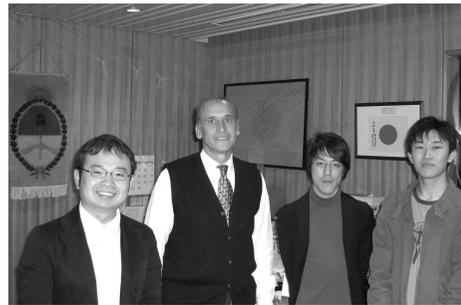
手紙へのサイ
ンなどをして
いました。そ
の後、夜の6
時からエリッ
ク・クラブト
ンのライブを
観に行きまし
た。

◆特命全権大使へのインタビュー
今回は、特命全権大使のアルフレド・マル

す。アルゼンチンの面積は日本の5倍ですが、
人口は日本の5分の1です。アルゼンチンが日
本から輸入している物の多くはエレクトロニク
ス製品です。一方、アルゼンチンが主に日本へ
輸出している物は食料品で、特にワインに力を
入れています。他にも資源や自動車部品等があ
ります。また、アルゼンチンには日本の直接投
資によって、トヨタやホンダ、NEC、ヤマハ
等の子会社があります。また、シームレスパイ
プメーカーのテチンと日本のNKKがジョイン
トベンチャー企業を設立しました。私は今後、
両国は発展すると思います。それは、日本に必
要とされている食料品とエネルギーをアルゼン
チンが所有しているからです。あと、アルゼン
チンの特徴として科学技術と医学の分野におい
てノーベル賞を3回受賞したことが挙げられま
す。この分野においてはポテンシャルがあると
思います。もしこの分野における共同のプロ
ジェクトがあれば、アルゼンチンと日本の関係
が深まるのではないのでしょうか。
③アルゼンチンの大学事情について
—アルゼンチンにおける大学への進学率、
大学の学費、留学事情について教えてください。
アルゼンチンは他の中南米の国々と異なり、
教育水準がとても高いです。人口の99%が「読

み書き」をすることができます。その高い教育
水準によって、アルゼンチン国内には大学が数
多くあります。そして、様々な専攻の勉強が可
能になっています。例えば、社会学、医学、法
学、数学、物理、原子力の分野などがあります。
語学においては、英語、フランス語、イタリア
語、ポルトガル語が中心です。しかしながら、
最近では日本語や中国語の勉強も行われていま
す。また学生の留学先で多いのが、スペインや
イタリア等のヨーロッパ地域です。アルゼンチ
ンの人口の約60%が、スペインかイタリアにゆ
かりのある人なのです。語学のために留学して
います。他の国の親戚に会ったり、外国を知っ
たりすることが大切。途上国の学生が先進国を
勉強することが大切です。ただ、最近ではアジ
ア地域への関心も高くなり、政府側でアジア地
域への留学を支援しています。毎年、留学プロ
グラムによってアルゼンチンの学生20人が日本
へ勉強しに来ています。また、日本人の学生は
アルゼンチンに留学してサッカーやスペイン語
の勉強をしていることもあります。
—学生たちに人気のある職業について教えてください。
また、最近日本ではニートが急増して
いますが、アルゼンチンではそのような状況が
ありますか？

時代によって人気の職業は異なります。私が
大学を卒業する時には弁護士が人気の職業でし
た。しかし、現在ではエンジニアリングが人気
です。また、アルゼンチンの学生は常にチャン
スをしっかりと掴もうとします。日本では、親に
頼ればなんとかなるという考えがあるからニ
トが増えているのかもしれない。アルゼンチ
ンにおいては、両親の経済力に頼れない状況に
あるため、独り立ちすることが当たり前になっ
ています。
—最後に学生へ向けてメッセージをお願いいた
します。
今回インタ
ビューという
形で、学生の
みなさんにア
ルゼンチンを
知らせる機会
を提供してい
ただきありが
とうございま
す。この雑誌
を通してアルゼンチンに旅へ出ようと思いま
したら、大使館にお気軽にお問い合わせください。



公使と「PLUS i」取材班の集合写真 (2006.11.20)

— 外交官になった理由について
教えてください。

世界の異なる国家への理解に興味がありました。消化器外科医師としての仕事をすると傍ら、法律の勉強や経済・政治を夜間学校で学びました。ラテンアメリカでは学問の種類について開けていたので様々な分野を学ぶことができました。

— 実際に外交官になって感じた、仕事の面白さと大変さについて教えてください。

両国間の関係を政治、経済、文化の面から強化するのは興味深い事です。しかし実際には、先進国が途上国から学ぶものは無いと思われがち傾向があつて、それは難しい部分です。

② 日本とパナマの関係について
— これまでの経済・貿易面における日本とパナマの関係について

日本とパナマには102年間の外交史があります。経済関係については対等ではなく、輸出入量はバランスが取れていないのが現状です。日本からの輸出が多く、パナマからの輸出は少ないです。本質的にこうした関係は、男女の関係に喩えることができます。女性が男性に与える愛に対して、男性はその3分の1くらいしか答えないだけでは駄目なように、経済

志望者が多く見られます。また、最近では情報科学の生徒も増えてきています。外国語だと専攻が多いのは、英語ですね。その他のヨーロッパ言語もありますが、あまり数は多くありません。

— 大学卒業後、どのような職業に就く学生が多いですか？ また、人気の職業について教えてください。

製造業がほとんどなく、サービス業が多いです。例えば運河を通過する船舶の管理などです。他にもIT企業などに就職する人も多いです。

— 今の日本の大学生とパナマの大学生に、今後どのような関係を築いてほしいと考えていますか？

学生間で相互の国を訪れ、相互にコミュニケーションと取れば、友好関係を築けると思います。

— 最後に、神奈川大学生へ一言お願いします。
勉強に励み、歩き続けること。しかしこれだけは忘れないで下さい。自分の為だけに行動をしないこと。他の人がいる事を忘れてはならず、社会の利益になるような行動をしなければいけません。つまり、自己中心のようになってはいけないという事です。自分個人が社会の一部である事を自覚しなくてははいけません。周りに

済においても対等な関係が必要なのです。コーヒーや果物、観光などパナマから日本に与えるものは沢山あります。日本人がより開いた心でパナマを訪れてくれれば、何かのきっかけになって、より良い関係が築けるでしょう。

— 今後、パナマはどのようなように発展していきますか？
また、その過程で日本とどのような面で関係を深めていきたいですか？

資本主義経済である中で、貧困層をどのように支えていくかが重要になります。そうした問題はパナマに限らず、色んな場所にあるのがお分かりだと思います。
その解決策を考える事で発展に貢献していきたいです。



特命全権大使のアルフレド・マルティス氏

③ パナマの大学事情について

— パナマにおける大学への進学率、大学の学費、留学事情について教えてください。
確か、1つの国立大学と4つの私立大学があったと思います。その他6〜8校くらいがパナマにあります。国大に通う学生は約3万5000人です。

困っている人がいればその人の為になる事を考えなくてははいけません。これは外交官の仕事がこなす上でも、強く思っている事です。



受付に飾ってあるパナマの国旗

【交流しようとする心がけの大切さ】

取材を始める前は、大使館に対して近寄りたイメージがありました。それは間違いであることが分かりました。今回訪れたアルゼンチンとパナマの大使館では、私たちの取材に対して快く迎えてくれましたし、インタビューだけでなく館内を見学させてもらうこともできました。さらに、アルゼンチン大使館の公使が日本に留学中のアルゼンチンの学生を紹介してくれたり、パナマ大使館の大使がパナマ人から見た日本人の長所と短所についての確に答えてくれたりと、本やインターネットだけでは分からない生の情報を提供してくれました。また、大

00人です。入学金は安く、60ドルが基本となっています。国立大学への進学率は15〜20%くらいです。パナマ国内で言うと31%くらいの人々が大学に進学していると思います。たとえば医学部、法学部なら5、6年、建築学部なら5年の就学期間が一般的です。パナマの国大は各地に分校を持っているため、そこに通う生徒もいます。専門学校のような機関もその中にはあつて、機械などの専門技術を学ぶ所です。ここ数年の内にパナマでは、10万人くらい専門技術を身につけた人が出てくるとされています。パナマでも教育はとても重要な分野なのです。小学校からPC教育できるようなシステムもできています。来年、2千校くらいがPCを完備した小学校になる予定です。

— パナマのどの地域に大学が多いですか？
大学の殆どは首都圏内にあります。

— パナマの大学生の特徴について
教えてください。

当然、悪い生徒も良い生徒もいます。8割は真面目でしょうけど、残りの中には勉強しない人も勿論いるのです。法律、技術、経営学、旅行関係が専攻としては多いのですが、パナマはサービス業の比重が多いため、そこに関する弁護士の需要が高いです。そのため、法律の専攻

大使館の運営費は自国でまかなっているため、国の規模によって大使館の大きさが異なることが分かりました。ただ、私はここで大使館の大小を問うわけではありません。インタビューを通して、各々の国の大使たちが講演会やイベント、広報活動などを通して日本との交流をより深めていこうとする姿勢が伝わりました。大使館の役割として大事なものは、積極的に交流していこうとする心がけであり、大使館の規模は無関係であることを実感しました。

この記事を読んでいる人の中には、まだ日本を出たことの無い人がいると思います。もしもこれから外国へ行つて、異文化コミュニケーションを体感したいと考えている人がいたら、ぜひ大使館を訪ねてみてください。そこでは様々な情報が得られるだけでなく、人との触れ合いを感じるとと思います。

また、異文化コミュニケーションは大学の中でもできます。それは外国からの留学生と話してみたり、神奈川大学横浜キャンパス16号館の地下1階にあるイングリッシュラウンジを活用してみたりすることです。神奈川大学横浜キャンパスの留学生(学部生)は164名いますし、イングリッシュラウンジにはネイティブの先生たちがいます。



特命全権大使と「PLUS i」取材班の集合写真
(2006.11.22)

この記事を読んでいただき、ぜひ自分から積極的に異文化コミュニケーションをしてみてください。これまでに知らなかった世界が見えてきます。あなたの身近にも、異文化コミュニケーションは数多くあるはずです。

図表3. アルゼンチン・パナマ・日本の比較（面積・人口・言語）

	アルゼンチン	パナマ	日本
面積（千平方km）	2782	76	378
人口（万人）	3810	3	12776
言語	スペイン語	スペイン語	日本語

出所：外務省ホームページ 各国・地域情勢 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

【今回訪れた大使館のホームページ】

◇ アルゼンチン共和国大使館

<http://www.embargentina.or.jp/>

◇ パナマ共和国大使館

<http://www.embassyofpanamainjapan.org/ja-index.html>

【参考資料】

◇ メルシャン株式会社「ワイン参考資料」

http://www.mercian.co.jp/wine/wine_market/2005.pdf

◇ 外務省ホームページ 各国・地域情勢

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

◇ All About 転職・キャリア用語集

http://kw.allabout.co.jp/glossary/g_career/w003657.htm

◇ 国際交流ニューズレターNo.26

神奈川大学留学課 編集・発行